



医療、情報科学の技術革新が 診療所の在り方を変える

2014年2月取材

三重県度会郡南伊勢町
関岡クリニック 院長
関岡 清次 先生

伊勢志摩国立公園の南玄関に位置し、リアス式の海岸美と豊かな緑に囲まれた南伊勢町。関岡清次先生は2006年に、この風光明媚な町に関岡クリニックを開業しました。周辺ののどかな風景とは対照的に、同クリニックでは万全の検査体制に基づく、ハイレベルな医療が提供されています。

開業は理想を実現するためのトライアル

「以前から地域医療に関わりたいと思っていました。また、もともと海が好きだったものですから」と語る関岡先生が、町立南伊勢病院の院長に着任したのは2000年のことです。その後、地元の津へは戻らずに開業したのは、同地に対する愛着と同時に、地域医療に対して、ある可能性を感じていたからだと言います。関岡先生は母校の三重大学医学部で長年、循環器領域の臨床と研究に携わってきた一方で、そのプロセスで使用してきたコンピューターに関して、名古屋大学工学部で非常勤講師を務めた経験を持つほどのエキスパートです。最先端の医療と情報科学に接する中で、近年の技術革新が、遠隔地における医療資源や人材の不足を十分に補うことができると確信していた関岡先生にとって、開業はそれを実証するためのトライアルでもあったのです。



関岡先生がつくったクリニックのホームページ内には、クリニックにおける症例や診断方法などの情報が満載です。患者さんにその理解を促すため、待合室のディスプレイにもそれが映し出されていました。

万全の検査体制を整備



関岡先生はMDCTなどで得られた早期発見の症例等をホームページに掲載する他、積極的に発表するなどして、その有効性と必要性を広く訴えています。

関岡先生がこだわったのは、万全の検査体制を整えること。内視鏡やデジタルX線、超音波検査、血液・生化学検査に加え、開業2年目にはMDCT(3次元CT)を導入しています。「大学にいた頃、MDCTは主に血管造影のために使用していましたが、3次元ですから、がんはもちろん、脊椎、耳鼻科領域の診断も可能です。大病院に紹介したり、入院が必要だった検査が、患者さんは日帰りで受けられるわけです」。また、MDCTをはじめ各種の診断画像や検査結果はクリニック内のサーバーに保存され、即座に参照することができるため、その比較により、がんの早期発見や病態の経過判断を正確に行うことが可能です。実際、開業以来、同クリニックでは胃がん27例をはじめ、数々のがんを発見し、早期治療に結び付けています。

基本的に24時間体制のフル回転

「正確な診断ができるからこそ、私はその先にある、治療という“戦場”に自信を持って臨むことができます。自分で結論が出せる環境を整えておけば、救急の対応も怖くはありません」と言うように、関岡先生は出張や津市内の自宅に戻るときを除き、診療時間外でもクリニックへの電話を携帯電話に転送するなどして、診療に応じています。大学病院並みの検査に加え、24時間の診療体制——都市部から離れた地域に住む人々にとって、それがどれだけ心強いものかは言うまでもないでしょう。クリニックを訪れる患者さんは後を絶たず、関岡先生の日常は多忙を極めますが、「地域医療を担う人間にとって、当然の義務」と意に介しません。むしろ、その表情は自身のトライアルが実を結びつつあることへの充足感に包まれていました。



血液・生化学検査の他、24時間ホルター心電図などのデータなどもクリニック内のサーバーに保存されますが、関岡先生はそのシステム構築やプログラミングなども手掛けています。